

温古知新③〇 菜根譚 2 〱 1

笑顔礼讃西東

朝霧社 (長野県・松本市) 2 〱 3

杉山悦郎 (新潟県・柏崎市) 4

投稿作品 6 〱 10

心に残った作品 10 〱 11

新潟ぶらり / 山田花作の横顔 1 11

詠み人スクランブル(おすすめの紅葉スポットはどこですか?) 12 〱 13

お客様の「リレーエッセイ」 村上澄子 14

ニユースあれこれ 15

詠み人の「リレーエッセイ」 歌人 里見佳保 16

10
October
Vol. 76

*
「喜怒哀楽」は、
文芸を楽しむ方々の
活力の源を目指し
(株)ミュージック・コーポレーション
喜怒哀楽書房が
隔月発行している
情報誌です。

喜怒哀楽

詠み人応援マガジン
詩歌俳柳壇ニユース



前回より始めました「菜根譚」。今回は、三項から六項までご紹介します。

君子の心事は、天青く日白くがごとくすれば、人をして知らざらしむべからず。君子の才華は、玉のごとくを韜、珠のごとくを蔵さば、人をして知りやすからしむべからず。

(上に立つ者の心が晴天の白日のように公正であれば、人が知らないことはない。才能をひけらかさなくとも、自然と知れ渡るものだ。)

つまりは、安易に目立つようなパフォーマンスせず、本心に従い淡々と堂々と生きなさい、ということでしょう。

勢利紛華は、近づかざる者を潔しとなし、これに近づきて而も染まざるものを尤も潔しとなす。智械機巧は、知らざるものを高しとなし、これを知りて而も用いざる者を尤も高しとなす。

(有力で勢いがあり華麗な人間・俗事に近づかない者は清潔だが、近づいても染まらない者はもつと清潔だ。悪賢く策を弄する事を知らない者もつと清潔だが、それを知っていて利用しない者こそ高潔なのだ。)

他に頼らず、自分をしっかり持って生きること

が大事な事なのです。

耳中、常に耳に逆らうの言を聞き、心中、常に心に払ふの事ありて、はじめて是れ徳に進みて行いを修むるの砥石なり。若し言々耳を悦ばし、事々心に快ければ、便この生を把りて鳩毒の中に埋めん。

(聞きたくない言葉を聞き心に添わない事があるから、他人の痛みが解かり徳を修める基盤となる心ができる。甘い言葉と楽しい事ばかりなら、人生を毒の中に沈めてしまうことになる。)

耳に痛い言葉を受け入れ、嫌な事を率先して行う。これができたら、素晴らしい生き方ができるかも。

疾風怒雨には、禽鳥も戚々たり。霽日光風には、草木も欣々たり。見るべし、天地に一日も和気なかるべからず、人心に一日も喜神なかるべからず。

(嵐の日は鳥も寂しく悲しげで、晴れた日は草や木も楽しげだ。自然には一日でも穏やかで和らぐ日がなければならぬし、人の心も一日でも心から喜ぶ気持ちがあればならない。)

穏やかな日が一日でも多いよう、心動かさずにいられたら良いですね。

人間、謙虚に他に依存しすぎず穏やかに努めることが大事なことでしょうか。今回は七項から!

(古川久美子)

朝霧社

夏期歌会・新鋭賞受賞式・
歌集出版祝賀懇親会

主宰 山村泰彦様

〒39910036
長野県松本市村井町南一丁目29番31号



▲主宰の山村泰彦さま

芒の穂がゆれ、少し秋の気配をまとった信州。8月31日、塩尻市の中信会館で開催された朝霧社の夏期歌会及び新鋭賞受賞式・歌集出版祝賀懇親会にお邪魔しました。

朝霧社は、若山牧水の創刊した「創作」の流れを汲み、昭和28年、若山喜志子を顧問に山村湖四郎が中心となり発足した会。平明で個性豊かな詩情に富む、現代的な知性ある短歌を作歌の指標としている。

60名の方々が一堂に会する様子は圧巻。ロビーでも会場でも、楽しそうに会話する姿が見受けられる。
9時半、亡くなられた会員の方への黙祷のあと、主宰である山村泰彦さんよりご挨拶。最後は「今日の日が、明日からの作歌の糧になることをお祈りします」と締めくくられた。

早速、歌会にうつり、事前に提出された77首を4人の選者が分担して選評し、その後、互選をする。

◎1位／やんわりと背を打たれて見返れば蚊を逃したる妻の手のひら
嶋崎暉久

初句の「やんわりと」ではなく、「軽く」とはつきり言った方がいい。「軽くわが背を打たれて見返れば妻の手のひら蚊を逃したり」ではいかがか。妻とのひとときを、よくとらえている。
◎2位／仕上げたる人形「静」を手放す夜もの言へぬ唇に紅ひき直す
井坪富貴子

丹精込めて作った静御前の人形。手放す最後の夜、何も言わない人形に紅をひき直す、この感じがとてもいい。詠みぶりも確か。
◎3位／臥す妻の洗濯ものを畳みつつまされる。この方はテレビを見てい

ではなく聴いている、つまり手は動かしながら「明日、洗濯物は夕方までに乾くのかなあ」などと、心をすまして聴いている。老いは寂しいものだが、これを歌にするところが素敵であり、歌になるのだと教えられた。



▲昭和28年山村湖四郎創刊月刊「朝霧」9月号

◎4位／病む母の記憶は生れし家に帰り童女となりて野山を駆けをり
上條ひろ子

「病む母の心は生れし家に帰り童女となりて野山を駆けをり」とした方がいい。「をり」だと説明的になる。

◎5位／やわやわとほぐれ咲きたる夕顔に話しかけおろころ軋む日
横山憲子

一種の心象詠。何か、心のいらだつことがあったのだろう。思い切つて散歩に出た庭先に、可憐でふくらとした夕顔が咲いていた。花に語りかけているうちに、気持ちさが落ちてきた。

◎6位／栗の花咲く坂道を立ちこぎの朝の学生リュック躍らせ
塩原芳子

栗の花が咲く初夏。高校生たちが、坂道を自転車で立ち漕ぎをしながら行く。よく見ると背中のリュックサックが躍るように揺れている。高校生たちを、温かな眼差しで見守る作者だ。

◎7位／バリカンで刈り上げし子の襟足より夏の暦が動き始める
宮尾ゆき

さわやかで前向きな感じがとてもいい。刈り上げてもらって、何かのスポーツに挑もうとしているのか。「襟足より夏の暦が動き始める」で、いい読後感を味わわせてもらった。

◎8位／老農にポーナスなけれど菜園に地味な野菜の花を咲かせり
小沢恵美子

考えさせる歌だが、「地味な野菜」が合わない。きれいな花を菜園に咲かせると、上句と下句が合ってくる。合うということを入れて作歌するとい。「老農にポーナスなけれどわが畑に白き夕顔の花を咲かせり」。



◎9位／そのかみに美田と呼びしが胸を刺す放棄もできず持て余す田んぼ
小林哲彦

まさに現代の歌。大切に育ててきた田んぼだが、事情によって守りきることができない。そのことが胸をさす。「そのかみ」＝「昔は」ということ。「児孫のために美田を買わず」という言葉もあるが、時代が刻々と変わっていくことを、この歌を通して感じる。

◎10位／必勝の手拭いきりりと額に巻いて杳挽きお朝の四時半
北島功

4時半は早い、夏は涼しくて仕事もはかどる。「必勝」とある手拭いを頭に巻くところが、ユーモアがありながら、ひきしまった気持ちを感じさせる。

「巻いて」ではなく「巻き」としたい。
 互選賞は6位以上の方に、続く選者賞には1位の方に賞品が授与される。

以下は、各選者賞受賞歌と総評。
中羽田忠武選者賞

妖精の住むまち緑の北の杜ビッコの音の遠く聞こゆる 白倉一民

〈総評〉人に伝えることに全力をあげる必要がある。個体を通しての実感、それをとらえて表現することが大切。実感とは発見であり、心のゆらめき。歌は詩でなくてはならない。頭の中で作ったもの、説明はいけない。

中山村泰彦選者賞

仕上げたる人形「静」を手放す夜もの言へぬ唇に紅ひき直す 井坪富貴子

〈総評〉わかりにくく、やや曖昧な歌が多かった。下手でもいいから、というと語弊があるが、とにかく自分の思いを伝える、一生懸命書く、歌のどこかに自分が入っている、そういう方向で努力されるとさらにいい歌になる。

31文字に全力を注ぎ、同時にこの歌は俗っぽくないか？ という視点も持つてほしい。

中伊藤亮選者賞

やんわりと背を打たれて見返れば蚊を逃したる妻の手のひら 嶋崎暉久

〈総評〉日常のどんなことも歌に昇華できる。老いの歌を多く目にするが、



▲羽田忠武さま



▲伊藤 亮さま



▲百瀬享子さま

老齢なれども老人ならざるの気概をもつて詠んでいきたいし、心をつくして深く温かく詠みゆく私たちでありたい。

中百瀬享子選者賞

バリカンで刈り上げし子の襟足より夏の暦が動き始める 宮尾ゆき

〈総評〉一字余つても助詞を入れた方がいい場合もある。リズムからくる受け取り方の感じも、歌にとっては多分にプラスになる。そんなことに注意を払って作ってください。

〈続いて、出た歌に対する質疑応答の時間〉

Q／オオキンケイギク繁殖力の強きゆる群れ咲くままを根こそぎ抜かる

という歌を出したが、外来種でもあり大錦鶏菊をあえてオオキンケイギクとした。どちらの表記がいいのか。

A／最近の辞書は、カタカナで書いているものが多い。チューリップ、アネモネ、コスモスなど、外来語だとはつきりしているものはカタカナでいいと思うが、それ以外、文学として書く場合は日本語で書く、そんな原則でいいかと思う。動物の場合、カナリヤはカタカナで、雀、つばめ、かわせみは、漢字またはひらがなで、ということ。

Q／病む母の記憶は生れし家に帰り童女となりて野山を駈けをり

駈けているのは本人ではなく推量な

ので、「駈けをり」や「駈ける」ではなく「駈けおらむ」の方がいいのでは？
A／100%とはいわないまでも、この場合は状況がはっきりとわかるので、断定的に言っていると思う。

Q／テレビより体によいとの情報にアロマ・くるみにとるる売り切れ

細かい話だが先ほど選評で、とるるをとるる芋とおっしゃっていたが、私はとるる昆布だと思った（会場、少しざわつく）。

A／みなさんどうですか？ とるる昆布ですか。それは失礼いたしました（笑）。

選者より／戦争放棄の憲法は世界一われは忘れぬ校長講話を

この場合の「ぬ」は完了の終止形と思いがちだが、忘れずという意味の打消しの終止形。「ぬ」より「ず」がいい。この完了の助動詞はよく出てくるので、心して使してほしい。

会員より／入院の義兄と施設にゐる姉の家にて放つ鉢のグツピー

先ほど選評で、「入院の」がどこにかかるとはつきりしないと云われたが、現在入院中の義兄と施設にゐる姉夫婦、その誰もいない家の池に鉢のグツピーを放した、ということだと思ふ。

Q／必勝の手拭いきりりと額に巻いて杏挽ぎおり朝の四時半

貧しくとも平穏な日本にありたしと北野武氏ぼつりと云ひぬ

短歌では「必勝」や「貧しくとも平穏な日本にありたし」のように、「」をつけた方がいいのか、つけなくてもかまわないのか。

A／強調したい場合はつけた方がいい

と思うが、そんなに思っていないければ、意味がわかっているものでつけなくてもいいと思う。作者にまかせるとのこと。つけた方がいいと思つたらつける、くらの感覚で私はやっている。

続く新鋭賞授賞式、歌集出版祝賀会、懇親会では、含蓄のあるスピーチあり、余興あり、全員での合唱ありと、和やかで華やかな時間が流れていた。

★61年という確かな歴史の重みゆえか。歌会から懇親会までの終始一貫、会の懐の深さと余裕、地域にしっかりと根を張っている堅固さを感じた。それは、月刊の歌誌の発刊、年4回の社外および本社での歌会と、弛まずに研鑽を積んでいるから。日常を詠み、晴れやかな歌会で発表する、その「ハレとケ」が日頃の生活にいい刺激とリズムを与えているという印象を受けた。そして、最後の質疑応答では、時間不足で打ち切られるほど女性陣からの質問が相次ぎ、新潟県人とは違う気質にびっくり！
 常にここにことほほ笑み、気配りをされる小児科医でもある山村主宰の柔和さがなせる業なのでしょうね。
 （木戸敦子）



▲「青い山脈」など数曲を熱唱！

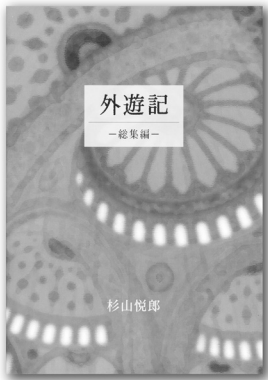
『外遊記』 杉山悦郎様

(新潟県・柏崎市)

去る8月6日、映画を観るために、柏崎市から娘さんのいる新潟市に遊びにいらした杉山悦郎さま。3月にまとめた『外遊記』についてお話をうかがいました。

■『外遊記』をまとめようと思ったきっかけは？

過去の旅の記録は、その都度日記のような形で本にまとめていたが、どこかもの足りなさを感じていた。しみじみとした旅情、異国で感じるノスタルジア、他国の人と交わした友好、生活や宗教の違いなどを十分に言い尽くしたいと思うに至り、それらをまとめて記すことにした。タイミングとしては、年金があまり減らないうちという思いもあったので(笑)。そしてこれは、最後の大事なだと自分に言い聞かせて取いかかった。



▲『外遊記』は杉山家の愛と団結力を感じさせる一冊



▲お孫さんの絵を使ったもう一種のカバー

■まとめるのは大変だったのでは？

家族や縁者の理解が得られたことが幸いし、特に大変だと思いうことはなかった。孫の描いた挿絵や「はしがき」「あとがき」も家族みんなが全面的に協力してくれ、ただただ感謝している。最初、写真を入れようとも考えたが、自分の本であれば稚拙でも自らの絵を入れたという道楽者の偏屈が働き、結局50点弱の挿絵を入れた。文字や文章の間違いは丁寧に直していただき、きれいな仕上りに大満足。自分としては後世に残る逸品であり、一緒に棺桶に入れてほしいと思っている。

■ご自分で絵も？

前職は中学の英語教師だったが、貧しかったため日中は働いて高校は夜学に通った。昔から絵と英語は得意だったが、建具屋で働いていたので障子の枠を作るなど、そこでノコギリ、ノミ、カンナの使い方を覚え、木工工作も趣味に加わった。アメリカのヨセミテ公園でセコイヤの一種、レッドウッドを見た際には、これで何かを作りたい！といってもたつてもいられなくなり、帰国してすぐにインターネットで入手し、宝石箱を作った。入れる宝石はないのね(笑)。

■旅のよさというところ？

スペインの言葉にならないような満月の美しさ、ロシアのひどいホテル、機内で酸素マスクが下りてきたこと等、思い出は尽きないが、見知らぬ土地で見知らぬ文化に接し、見知らぬ人と心を開いて話をする。観るものではなくとも、そんな些細なことで満足できる。一つ言えるのは、旅を楽しむするもし

ないも、自身の心次第だということ。自分を耕すことが、旅を、人生を楽しむ秘訣かも。でも、私は一人では旅ができない(笑)。夫婦旅行は20回を超えるが、旅の準備一切は妻任せ。よくついでにきてくれたと感謝あるのみ。

■今、夢中になつてゐること

旅以外にも道楽があるものの、①木工工作、②絵、③読書、④陶芸(土いじり)の順といったところ。秋田を旅したら秋田杉、釧路では蝦夷松を土産として購入し、それらを材料に木工品を作り、旅がより一層思い出深いものとなつている。旅はその場はもちろん、終えてからも文章にしたり、絵に描いたり、写真を楽しんだりと3回は楽しめる。読書に関しては、娘にインターネットで外国の本を取り寄せてもらい、これまた娘にプレゼントしてもらった電子辞書をひきひき読んでいる(笑)。

■これからは？

まだ行つていないところに行つてみたい。もう一度アンコールワットを見たいし、万里の長城は海へ入る端っこがどうなつてゐるのかも見届けたい。(同席した娘さんに向かって)「あんたたちも、ついでに来たかつたら、連れてつてやるよ！」



▲目をキラキラさせながら思い出を語ってくださった杉山さん

○『外遊記』より一部抜粋

○息子さん「序文」より

「単純なことがきつと親子のDNAなのだ。両親に言つておく、①生き方や考え方は単純でいい。②でも、ボケない努力をせよ。③そのために、この旅行記を一つの通過点と考えて、次の海外旅行をめざしてほしい。

○娘さん「父に捧ぐ」より

退職後は好奇心の趣くままに旅をし、本を読み、工芸に親しみ、映画を観て、孫を愛し、達者に生きてゐる。昭和のサクセスストーリーの具現者だ。敵うはずなどないのだ。願わくは、この先まだまだずっと、母と二人の旅行記が続きますように。いつまでも私の息子たちの「憧れのジジ」でありますように。Have a nice trip.

○妻より 八十路まで生きながらえし幸せに旅の思い出語りつくさん

★昭和50年、英語教師として2カ月かけて横断したアメリカへの英語研修に端を発した海外との出会い。81歳の今も、娘さんと月に1度か2度は映画を観に行くといい、当日は一緒に「ゴジラ」を見終えたばかり。「大変な読書家でグローバルな知識が豊富。映画のシーンや一言のセリフで文化的・歴史的背景を察し、建造物や景色の1カットで、その空気を掴める」とは娘さん評。シンプルで好奇心に従いつつすぐで、快活で。「腰巾着みたいなもんですわ」という奥さまとの末永い旅を、家族はもちろん、周囲の誰もが応援したくなる方だ。杉山さん、人生、三毛作、四毛作ですね！ (木戸敦子)

送料ご負担に関するご理解とご協力をお願い

今までのご愛顧に感謝いたしますとともに、
来年の2月号分より「喜怒哀楽」の送料ご負担をお願いいたします。
ご入金いただいた方にも、お送りさせていただきます。

日頃より、当情報誌「喜怒哀楽」をご愛顧くださり、誠にありがとうございます。
今月10月10日に創立11周年を迎えられましたのも、ひとえに皆さまのご愛顧のおかげと、改めて感謝いたします。

この仕事を始めた当初はお客さまがゼロからのスタートでした。まずは当社を知っていただきたい、そのための広報ツールとしての役割を、この「喜怒哀楽」は担ってまいりました。

そのうえで、①俳句、短歌、川柳といった短詩系愛好者を応援していこう、②お客さまとの双方向のコミュニケーションをめざしていこう、③新潟から情報を発信していこう!という志を持って、無料送付を続けてきました。

おかげさまで、ページ数も当初の4ページから現在の16ページと増え、お送りするお客さまの数、アンケートやご投稿数も増加を続けてきています。送料や材料費も増えていく中、「ぜひ、お金をとってください」と送料分をお支払いくださる方、「いただきたいけど無料だと心苦しいので遠慮します」と辞退される方、品物を送ってくださるお客さまもいらっしゃいましたが、10年強、お客さまのご負担なきよう、努力して参りました。

一方、これからの本誌のあり方を考えたとき、今後、費用面での見直しが必要となりました。いくつかの手段・方法があるなか「喜怒哀楽」は広告収入を元に運営する情報誌ではなく、お客さまと当社で作る情報誌でありつづけたいという思いがあり、そのために現状の送料無料という方法では発行継続が難しく、このたび、お客さまに送料のご負担をお願いすることになりました。

これからも「喜怒哀楽」の発行を続けたい、よりご満足いただける紙面を提供したい、そう思っています。この書面で、本意が伝わるかどうか、はなはだ不安ではありますが、どうか意図をお汲み取りいただき、「喜怒哀楽」の行く末を、ご一緒に楽しんでいただけたらと、伏してお願いいたします。

ご賛同いただけます方は、次回12月号に同封の振込用紙にて、来年6回分の送料のご入金をお願いできればと存じます(※次回12月号まではこれまでどおり無料送付とさせていただきます)。

1年分6回で1000円です。大変恐れ入りますが、2015年2月号以降は、ご入金のご確認がとれた方に当情報誌「喜怒哀楽」を送らせていただきたいと思います。ご理解、ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

喜も怒も哀も楽もあるけど、仕方がないよね、だから人生いいんだよね、そんなふう
に、皆さまの日常をほんの少しでも応援できる紙面をめざし、頑張っていきます。
今後とも、よろしくご厚意申し上げます。

投稿作品

※面の都合上、投稿作品の掲載は先着300名様までとさせていただきます。何卒ご了承ください。しめきり2014年11月14日(金)まで※作品は原稿どおりに掲載しております。

川柳

- 1 海鳴りを呼ぼうあなたがいる朝は
やまぐち珠美(神奈川県)
- 2 解釈の変更できぬ原爆忌
原崇雄(埼玉県)
- 3 うおの目が健脚自慢黙らせる
中嶋秀次郎(埼玉県)
- 4 ふんどしに流し目使う孫娘
植松與悦(山形県)
- 5 若者よ!「金」はなくても「夢」買える
安木沢修風(新潟県)
- 6 夢の中ぐらいは夢を見ていたい
丸山芳夫(東京都)
- 7 そっくりな声母さんと代ります
石原岳(群馬県)
- 8 魴鮈の頑固さ美味さ厳めしさ
関本守(新潟県)
- 9 痛飲し転び毎日通院す
橋本世紀男(東京都)
- 10 俺の血は甘くないぞと蚊を叩く
藤沢健二(千葉県)
- 11 生きていく命のバトン引き継いで
藤井碩子(山口県)
- 12 とりあえずビール話はそれからだ
安田翔光(香川県)
- 13 戦争の好きな首相で困ります
大江秋月(兵庫県)

- 14 ゴキブリを叩きその手で写経する
久本にい地(岡山県)
- 15 老いてから一つ一つを確認す
松田義登(福岡県)
- 16 親の汗知つてか知らずか子のスマホ
大岩歌子(岡山県)
- 17 やさしさを父母からもらう里帰り
奥田音野(香川県)
- 18 なすがまま一歩が進み幸せだ
近藤はつみ(福岡県)
- 19 里帰り母の訛に安堵する
諸橋文男(新潟県)
- 20 戦争のあの辛さだけはしたくない
守屋高雄(岩手県)
- 21 あの顔もこの顔も居て隣組
鈴木義雄(福島県)
- 22 母のもつ忍の一字重さ知る
渡部美代子(山形県)
- 23 ダイエット犬にひかれる肥満体
高松秋良(群馬県)
- 24 知らぬ土地今ではみんな知った人
南喜美子(千葉県)
- 25 サトウキビ風より怖いTPP
福地義雄(沖縄県)
- 26 母恋うて十五の夏の特攻機
岡本邦子(福岡県)
- 27 叶うかは知らぬとにかく汗をかく
竹村穂夫(大阪府)
- 28 川の字を大崩れにして孫去れり
大場茂明(長野県)
- 29 薬よりナースの笑顔早く効き
山崎一嘉(愛媛県)
- 30 年金の話題微妙なお年頃
細川光子(栃木県)
- 31 百万の言葉に勝る玉の汗
岡本恵(茨城県)
- 32 どなたかなさぐり入れつつ同窓会
奥那於子(大阪府)

- 33 元氣してるか老父新米とやってくる
小山恵美子(大阪府)
- 34 宇宙まで響く家族のたか笑い
森恒雄(愛知県)
- 35 八月忌敵の名知らぬヤング達
近藤富夫(東京都)
- 36 定年後結ぶネクタイ白か黒
大久保アヤ子(東京都)
- 37 車椅子座つてみれと老母は言う
石山幸枝(新潟県)
- 38 受け取りは拒否致します無精卵
戸田美佐緒(埼玉県)
- 39 独り身で浮世の雑事パスしてる
山口千鶴子(東京都)
- 40 昨日という過去は持たない母卒寿
高橋久仁子(福岡県)
- 41 日本のあちらこちらに外来種
高柳閑雲(愛知県)
- 42 王手飛車孫に突かれて苦笑い
三宅得三(新潟県)
- 43 弟の笑顔を偲ぶ萩の花
宮川華余子(山梨県)
- 44 風鈴の涼しき音色夏夜風
後藤すえひろ(福岡県)
- 45 暴走す海山国にりんとする
伊藤敬子(宮城県)
- 46 負け戦経験してから強くなる
野田明夢(新潟県)
- 47 毎日を今が旬だと過ごしてる
中林恵子(大阪府)
- 48 終戦日知覧の蛍(いまいずこ)
鈴木章(新潟県)
- 49 栄光の暁過去の茨道
鏡たか子(山形県)
- 50 お空にも底があるのよカナシミの
石神紅雀(鹿児島県)
- 51 習わぬに芸子芸子と鳴く蛙
坂詰進(福島県)

- 52 健康に味付けうすく気をくばる
西井喜江(大阪府)
 - 53 我が人生酒と女房と二人旅
横山小観(新潟県)
 - 54 セクハラの怖さ会話に色気ない
田中耕一(新潟県)
- ## 俳句
- 55 ふるさとに待っていたよと枯梗かな
五十嵐睦博(新潟県)
 - 56 遠き日の妣のぬくもり冬瓜汁
塚田寿子(埼玉県)
 - 57 猫のゐる谷中寺町片かげり
鈴木智子(千葉県)
 - 58 敗戦日知らねば学べ平成つ子
近藤薫也(千葉県)
 - 59 横風注意北陸道や合歓の花
大橋恒次(新潟県)
 - 60 宙を向く乳房に秋の風を巻く
松田重信(埼玉県)
 - 61 集ひきて一、二、三、四、今朝の秋
山田富朗(埼玉県)
 - 62 愛犬の口開けしまま秋立つ日
二瓶邦枝(埼玉県)
 - 63 かなかなや今日は特別濃茶練る
吉里ひとみ(東京都)
 - 64 ねじ花やらせん果ての空青し
伊藤一子(東京都)
 - 65 大君の玉音しのび敗戦忌
土谷敏雄(秋田県)
 - 66 新涼や吾が魂に香を焚き
阿部徳夫(宮城県)
 - 67 足裏に砂のくづるる秋暑かな
環順子(東京都)
 - 68 反戦の声なき声や蟻の列
高崎登喜子(東京都)
 - 69 戦争は殺し合うこと草いされ
沢田稲花(山形県)

- 70 一鉢の色づくトマト心浮く
穂積光子(東京都)
- 71 小銭入れ税など囁ふ花卯木
千代田俳徒(東京都)
- 72 荒梅雨や戦に向かう道近し
関原幸子(東京都)
- 73 雲海に浮かぶネズミの心地良き
白戸麻奈(東京都)
- 74 盆太鼓賑わう町や臥床窓
野村牟人(東京都)
- 75 考妣のひとつ違ひや門火焚く
佐野和彦(静岡県)
- 76 残暑見舞走り来る兔かな
清まさじ(静岡県)
- 77 道づれのさしかけ嬉し秋日傘
炭崎博(滋賀県)
- 78 悪童も天使の顔に三尺寝
山崎吉晴(群馬県)
- 79 爽やかにたしなむ武道礼正し
天野輝子(東京都)
- 80 陽の残りつつんでたたむ秋日傘
堅田秀子(東京都)
- 81 秋桜人の道説く寺の庭
大内泰子(東京都)
- 82 草いきれ夢追い人になりきれず
林克(福島県)
- 83 母の色祖母の色なる桐の花
佐藤正子(福島県)
- 84 大東京にスーパームーン輝きし
井原毬子(東京都)
- 85 この露地の奥行き止り釣忍
檜山とり子(東京都)
- 86 路地に未だ昭和の名残釣忍
星野三興(新潟県)
- 87 風紋は駱駝の褥夏の月
川口襄(埼玉県)
- 88 藤十郎八十路の見得や夏歌舞伎
山田幸代(兵庫県)
- 89 蟻の列比叡山へと続きをり
神作洗江(埼玉県)
- 90 人の世も散りて咲く花日日草
西條公雄(埼玉県)
- 91 遠き日や線香花火の火を継ぎぬ
三津木俊幸(千葉県)
- 92 父母亡くて故郷恋し蝉しぐれ
鈴木岑夫(千葉県)
- 93 鯛や老杉深き屋敷神
佐瀬千恵(神奈川県)
- 94 ため口で諭されてをり百日紅
浦橋渴雪(兵庫県)
- 95 十五日の朝のひぐらし鎮魂歌
寺内信(埼玉県)
- 96 耳遠きことも幸なり秋日和
宇田川正雄(埼玉県)
- 97 西方の彼方に仏国去年今年
小井寒九郎(三重県)
- 98 白球の彼方の天の高きなり
樋口二葉(三重県)
- 99 炎天や八七調の校歌なり
阿部至(埼玉県)
- 100 秋灯や慎しみひらく歎異抄
大谷茂(埼玉県)
- 101 花火師の夜の闇に汗みどころなり
津田吾燈人(高知県)
- 102 鈴虫や今年も下さる旧き匂友
田野倉訓郎(東京都)
- 103 友逝きて一年の今日涼新た
武市愛子(大阪府)
- 104 駅ごとに蝉時雨乗せ神戸線
居原田連星(大阪府)
- 105 あと一球のエアール届かぬ鉦叩
椋本望生(大阪府)
- 106 素つぴんや花火濟みたる河川敷
篠原三郎(静岡県)
- 107 清流は風の道なり孟蘭盆会
渡邊碧海(静岡県)
- 108 一子だに遺せぬひとの墓洗ふ
紺谷睡花(東京都)
- 109 朝の庭ひととき鴨の聲の中
小澤円梨(静岡県)
- 110 送り火の消えて一人にもどりけり
竹内ハヤ子(埼玉県)
- 111 秋澄むや幼の一語かがやきぬ
青木ケン子(埼玉県)
- 112 早発ちの雨の妻籠や夏深し
上村元義(神奈川県)
- 113 夕闇に影絵となりし柿の落つ
緑川禎男(埼玉県)
- 114 かなかなや腹がへつたと男の子
平山千江(岩手県)
- 115 ニュータウン帰宅忍者とガーベラは
安部哲(新潟県)
- 116 紺碧の空月冴えて村暮るる
水落重式(新潟県)
- 117 夏風邪はご用無縁と奥座敷
忍正志(兵庫県)
- 118 山峡は暮るるに早し青鮑
清水勝子(神奈川県)
- 119 朝顔や垣にからまる風の色
竹本芙美子(新潟県)
- 120 新涼や風車の回る展望台
西口東治(大阪府)
- 121 明日あるを人は信じて星祭
一瀬正子(埼玉県)
- 122 慰霊の日に次ぐ八月十五日
福岡悟(東京都)
- 123 鯿釣りの少年祖父を大声で
油谷郷史(兵庫県)
- 124 夏座敷犬と寝そべる風の道
坂山陽康(滋賀県)
- 125 かつこうの声もとだえた新住宅
芋木匡子(滋賀県)
- 126 荒波の迫りくる佐渡大夕焼
山本直子(大阪府)
- 127 冷房車スマホ見る人眠る人
布目雅之(東京都)
- 128 焼跡を雄鶏あゆむ敗戦日
川崎洋吉(福岡県)
- 129 鬼灯や音色愛しき少年期
坪田勝秀(鹿児島県)
- 130 巡回ラジオ体操地から蝉しぐれ
有田裕子(北海道)
- 131 安らぎは晩年にありリング食む
内河邦久(東京都)
- 132 父も子も笑顔はじける水遊び
川嶋法子(東京都)
- 133 草笛は雀の鉄砲槍帷子
日下温水(東京都)
- 134 泰山木咲いて心の落ち着きぬ
鈴木蝶次(宮城県)
- 135 七夕や杖の歩に蹤く妻おりぬ
田島星景子(宮城県)
- 136 初咲きは亡夫の植えし爽竹桃
柳澤京子(宮城県)
- 137 米寿の賀生きてひ孫の菊の束
田中昶(鳥取県)
- 138 踊り子の一人に団扇の風送る
湯浅芳郎(岡山県)
- 139 秋深し亡き妻偲びひとり泣
島口健次(神奈川県)
- 140 アイデアの溢れて来たるチューリップ
松本さみ枝(埼玉県)
- 141 案内する夏手袋の白さかな
片山茂子(埼玉県)
- 142 陽炎や幻化の如き己が影
加用章勝(千葉県)
- 143 安曇野に黄金ひらけ豊かな季
須澤重雄(長野県)
- 144 南風や蔵王のお釜隠しけり
田中恵美子(山形県)
- 145 相聞の声のやさしや梅雨鴉
津田忠彦(岡山県)



- 146 ビリの子の無心の走り運動会
長峰正晴(千葉県)
- 147 雲ひとつ風ひとつなき暑さかな
高松ゆか(神奈川県)
- 148 球児等に喜怒哀楽の熱砂かな
井上静夫(栃木県)
- 149 人の世の尽させぬ思い星月夜
齊藤安弘(神奈川県)
- 150 露天風呂仲間呼び捨て薄紅葉
神一男(静岡県)
- 151 黙禱をして炎天の棒になる
北村純一(神奈川県)
- 152 信濃路や色なき風と二人旅
松前邦広(千葉県)
- 153 石垣におしろい花や百草園
福田和子(東京都)
- 154 図書館に句集読みたり冷房裡
大場きよし(宮城県)
- 155 思いつきり中止宣言夏まつり
井田由利子(宮城県)
- 156 江戸切子より溢れたる心太
古谷力(東京都)
- 157 老いの意地厄介なもの秋海棠
副島加代子(宮城県)
- 158 心太咽せて留守居の憚からず
小野正光(宮城県)
- 159 いろはにはまた筆習ふ蟬の声
松尾らん(東京都)
- 160 客一人降りるデッキや青田風
小林七重(新潟県)
- 161 久しぶり買った玩具にみむさせず
安田優子(北海道)
- 162 秋隣小さな旅の五能線
菊池シユン(青森県)
- 163 手を拭きて黙禱を待つ原爆忌
堀木和子(大阪府)
- 164 鯛雲放浪癖の抜けきれず
羽根田明(神奈川県)
-
- 165 いなびかり恐竜のように身震いし
杉村美保子(岩手県)
- 166 老犬の総身投出す暑さかな
藤井春三(埼玉県)
- 167 赤い羽根と宝くじを買ひにけり
関根千恵(埼玉県)
- 168 ミニトマトドレミファソラシド色染めて
能條憲夫(神奈川県)
- 169 秋立つやまだ八十とボール打つ
高橋まさ子(宮城県)
- 170 小窓より湯浴みの香り夜の秋
浅野信廣(宮城県)
- 171 幼な子は笑ひの神よ立葵
長島保子(東京都)
- 172 うしろ手に閉じる暮会所た立くる
倉田淑子(東京都)
- 173 蟬も母も軍馬も泣いた学徒出陣
暉峻康瑞(鹿児島県)
- 174 夏の家ファトレードの胡椒置く
富樫和子(山形県)
- 175 深き夜の月のさやけし人恋し
山本理香(大阪府)
- 176 流木の置土産あり秋出水
杉原明子(静岡県)
- 177 短夜や旅の日記の走り書
矢倉真子(大阪府)
- 178 模糊とせる島になだたる大銀河
澤雅子(大阪府)
- 179 晩涼やなにわの天守際立てり
中田文字(大阪府)
- 180 明日ひらく蓮の寝言かささ濁り
大塚徳子(埼玉県)
- 181 祈ること光をめざし蓮巻葉
青木涼子(埼玉県)
- 182 いつの日かいつしか我も生身魂
大窪美代子(大阪府)
- 183 伊達男背なに斜めのまつり文字
仁藤ひろじ(埼玉県)
-
- 184 核使用原発触れず原爆忌
濱田イサオ(福岡県)
- 185 星月夜恋の火紅くをみな待つ
堀井酔人(茨城県)
- 186 梨剥いて優しき言葉添えて出す
渡辺嘉幸(東京都)
- 187 炭鉱の灯は消えたるも盆踊り
吉村充治(埼玉県)
- 188 もつたない戦中精神芋を掘る
阿部幸子(宮城県)
- 189 残暑にも負けず生あり米寿かな
道給一恵(埼玉県)
- 190 八十路なお上を向いてと青葉木菟
岡村君枝(茨城県)
- 191 田舎蝨取りボン大好評
北野耕兵(千葉県)
- 192 赤蜻蛉あにを探しに行つたきり
池田岬(埼玉県)
- 193 惚けるは由々しきならず稲の花
渡辺由美子(宮城県)
- 194 杜の朝静寂を覚ます蟬しぐれ
中村和弘(愛知県)
- 195 茎持ちて走つてみたし曼珠沙華
中村康浩(福岡県)
- 196 たどたと夜なべの母の鯨尺
中嶋清子(佐賀県)
- 197 旧姓で呼ばれ振り向く夏祭
中野勝子(鹿児島県)
- 198 泡立草攻めきて原野埋めつくす
小林春雪(新潟県)
- 199 存分に枝を広げし花芙蓉
小林紀美子(東京都)
- 200 熊蟬の真盛りなる日の動き
服部八重子(東京都)
- 201 焼鮎と梁の瀬音を鄙の茶屋
磯部力(新潟県)
- 202 ようやくに梅雨過ぎ去りて森騒ぐ
木下精(大阪府)
-
- 203 終戦日一汁一菜麦を喰ふ
黒岩正子(埼玉県)
- 204 子らの声久しく響く村の盆
峯田まり子(奈良県)
- 205 お施餓鬼の説経の僧は伊予訛
井上氣海(広島県)
- 206 枝豆の殻積み上げて俳談義
平野貴美(東京都)
- 207 限られし時間を焦る蟬の焦
岩村昇(神奈川県)
- 208 天性の向日葵の微笑受け止める
早乙女文子(埼玉県)
- 209 万引き小僧小鼻に汗し逃げにけり
山東爺(北海道)
- 210 秋めくやみとりの日日の文庫本
大阿久雅子(埼玉県)
- 211 鰻屋の「う」の字大きく藍のれん
勝田久美(大阪府)
- 212 霧晴れて佐渡は間近に横たはる
津布久信雄(東京都)
- 213 見る阿呆で帰るつもりが阿波踊
石井登(大阪府)
- 214 朝蟬の澄みたる声の目覚めかな
駒場京子(神奈川県)
- 215 モネの絵の傘売る店や走り梅雨
中山日出子(大阪府)
- 216 発熱の孫と二人の終戦忌
星一子(神奈川県)
- 217 月中天彼に重ねる影ぼうし
松涛千鶴子(東京都)
- 218 一滴の水貴しや原爆忌
鮫島茂利(兵庫県)
- 219 入相の岬まあるく夏の果
高垣勝代(大阪府)
- 220 秋立つや殖えたる老斑数へつつ
松嶋光秋(東京都)
- 221 法師蟬片羽根折れてなほ鳴けり
田野井一夫(栃木県)

- 222 峡の風枕に届く鮎の宿
寛裕紀子(滋賀県)
- 223 糊の利く音を裂きたる宿浴衣
重原昇(新潟県)
- 224 墓参りせみ一匹ほどとまりおり
若月理依子(新潟県)
- 225 糸トンボ風の力を少し借り
岩崎政弘(岡山県)
- 226 白が好き足止めてみる花芙蓉
山崎鶴恵(鹿児島県)
- 227 何処からか風鈴揺らす風のきて
石川郁子(埼玉県)
- 228 牧場の牛横たはり夏終る
古川正栄(千葉県)
- 229 俯いて去る甲子園夏の雲
山岸伊久雄(東京都)
- 230 幾たびも出でて万屋水打てり
谷口弘(栃木県)
- 231 乾きたる畑の土や終戦日
佐藤信(神奈川県)
- 232 紫陽花や色美しい華麗なり
五味田幸夫(神奈川県)
- 233 かけて観る意外に似合うサンGLASS
中村慶子(滋賀県)
- 234 遠富士に雲の動かす吊し柿
浜田はるみ(埼玉県)
- 235 秋高し越後の鯉は丸太り
有田俊一(埼玉県)
- 236 秋暑しおのれ支ふる己が影
今井勝子(新潟県)
- 237 三線を爪弾く波戸や夏の果
邑橋節夫(兵庫県)
- 238 ゆらりゆら浮ぶ月観る足湯かな
菅井文男(新潟県)
- 239 昨日の暑さ一転窓を閉じ
針生清(千葉県)
- 240 万緑を歩く菩薩の懐に
岩田信(神奈川県)

- 241 せみ時雨はじまる夏の演奏会
青木里恵子(群馬県)
- 242 吹きぬける花野となりし捨て牧場
佐藤儀雄(北海道)
- 243 まなうらに焼跡の惨敗戦忌
増本和子(大阪府)
- 244 夏瘦せに老とは云わず生きる道
木村勲(山形県)
- 245 蓑虫の蓑溝萩の花衣
木村貞恵(静岡県)
- 246 鉛筆を嘗め祖母の書く盆の札
梶鴻風(北海道)
- 247 浜豌豆行きつく先にオホーツク
小山羊子(新潟県)
- 248 知らぬ子が飛び込んで来る夕立かな
田中美智子(埼玉県)
- 249 負け投手頬逆る汗なみだ
西川孝子(奈良県)
- 250 いちじくを嫌ふ子供に好む親
貝沼とし子(愛知県)
- 251 飢餓の日を想ふ夕餉や今年米
永井俊樹(兵庫県)
- 252 青田風車窓開きて深呼吸
増田公代(東京都)
- 253 真葛原自在に雲を操りぬ
望月よし江(埼玉県)
- 254 トドワラに松の白骨昼の霧
高杉杜詩花(北海道)
- 255 ふるさとの山河麗し星月夜
小野いるま(青森県)
- 256 蹲る妻の背秋意多かりき
小泉和明(茨城県)
- 257 十夜寺僧も檀家も老人に
浅海和代(東京都)
- 258 病んでみてコスモス親しくなりにけり
小島岳青(新潟県)
- 259 立待の月や湯上り待たせぬ
岩田桂太(新潟県)

短歌

- 260 星月夜管弦楽法ラベルきく
角谷不一(新潟県)
- 261 咲ききりし花の半分くずれ散る瓶に
さしたる紅き芍薬
佐々木都(長野県)
- 262 若き人八月六日ハムの日とああ広島
はどこへゆくのか 清水英雄(東京都)
- 263 祭りの日大喝采のひおとこも面を外
せば少女汗拭く
青木日出男(群馬県)
- 264 母に似た声が外から聞こえをりもし
やもしやと裸足で飛び出す
阿部澄江(宮城県)
- 265 地下足袋を革靴に換えて昼の庭じん
じん暑し会議に急ぐ
土屋喜雄(山梨県)
- 266 中東の戦は絶えず地球より重き命を
いかに救わん 山田薬山(埼玉県)
- 267 リムジンバスの二時間半国際空港ま
での道路の旅路の最前列よくみえる
びよびよびよお腹がすいた
梅澤鳳舞(埼玉県)
- 268 秘めやかにマリ藻育む阿寒湖のわか
さぎの舟露天より見ゆ
早坂紘司(北海道)
- 269 おばあちゃん一人立ちすると孫娘菓
剂師になり荷と去りて行く
高須孝(愛知県)
- 270 決勝打うたれてしばしうづくまる背番
号1に西日輝く 黒澤正行(福島県)
- 271 なが雨の晴れ間を待ちて空高くシヤ
ボン玉吹き喜々として妻
北澤実夫(東京都)
- 272 五十年余添いて生くるも時としても
とは他人という思想あり
寒川靖子(香川県)

- 273 台風にみな持ちさられ夏野菜泣くに
なかれぬ後しまつなり
佐伯セツ子(香川県)
- 274 朝顔の赤紫や胸燈露ひと粒を浮かべ
し花びら
永井えいこ(沖縄県)
- 275 足腰のままならぬまま二ヶ月余野菜
畑を思い煩う 田中豊恵(新潟県)
- 276 亡き妻の化身のごとき黒羽羽光の空
に昇りて消えぬ 野木宗信(奈良県)
- 277 風に乱れ倒れし穂草を刈り払う盆を
迎える墓地までの道
桑原謙一(群馬県)
- 278 色あいや個性の違う猫たちが冷たい
タイトルに長く伸び
濱崎祥子(鹿児島県)
- 279 金髪の幼児英語を喋りけり不思議な
るかな学ぶより前に
石尾曠師朗(東京都)
- 280 八月十五日追悼式にわれ生きのびて
知る「会者定離」久保和友(滋賀県)
- 281 朝まだき二匹の蜘蛛が懸命に巣を張
る糸に露のかがやく
緑川葉子(福島県)
- 282 越へ行く雷鳥号を見送りに後部標識
を指差確認 藤原昭三(滋賀県)
- 283 引つ越しの慌ただしさにひと息し暮
らし新たに荷作りほどき
大橋絵代(千葉県)
- 284 孫に会う喜び胸に旅支度心はずでに
ニユーヨークへ 矢島多恵子(東京都)
- 285 指折り短歌詠む我に我が夫指貸そ
うかとチャチャ入れる
音喜多千津子(埼玉県)
- 286 音立てて素麺する涼しさを一人味
わう米寿の昼餉
関子利明(兵庫県)
- 287 踊果つ吾子肩車の若き父夜空屋屑こ
ぼるほどに
村山徳英(埼玉県)

- 288 十年來我が短歌出版なしくる社訪ぬれば女子社員多数の歓待受くるとは
今井忠一(東京都)
- 289 「早起きは三文の得」紙匂ふ朝の新聞夫より先に 渡邊美枝子(山梨県)
- 290 哀樂の三百人の詠み人のほんの言葉読んで楽しむ 内田茂(東京都)
- 291 梅雨空に溶けゆくごととき透かし百合彩あえかに風に揺れ咲く
工代康子(香川県)
- 292 人は皆愛と絆で支えあい希望は高く心一つに 田中迪子(東京都)
- 293 冠水を「ぞぶる」と言ひて市街地の浮遊物をかきわけあゆむ
西山梯三郎(高知県)
- 294 盆踊り皆と染まりて輪の中へゆかたの私楽しきよよい
大鳥居牧子(東京都)
- 295 願はくばわれ老い入るも銀の高砂壺の様であれかし
萬濃その子(神奈川県)
- 296 廢校の砂場に埋めた金ボタン目を閉じるキミ俯くはボク
坂元正憲(東京都)
- 297 エミール・ガレの葎の育つ気配する雨降りやまぬ夜のしじまに
後藤美佐子(長崎県)
- 298 わが命いくさに津波に神にたまふ今宵沁みいるひぐらしの声
渡邊清(宮城県)
- 299 この世に生をうけて八十余年米寿を祝う春を待つて 林玉子(長野県)
- 300 受話機から会わせたい彼女いるという遅咲きの子にめぐり来る春
岩崎令子(大阪府)

8月号の 心に残った作品

「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんのお返をお寄せ頂きありがとうございました！その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。



田中美智子様

◎俳句部門

29 真白な歯が笑つてる日焼けの子
田中美智子(埼玉県)

・健康美が出ています。野村牟人(東京都)・上五中七の惜辞がすてきです。子供さんの表情が浮かんできます。大谷茂(埼玉県)・健康な少年の姿に平和を感じます。小林春雪(新潟県)・最近こういう子供が少なくなりました。津布久信雄(東京都)・現在は日焼けの子を見うけない。楽しい句。駒場京子(神奈川県)・元気な子供。このまま元気で成長することを祈らずにはいられない。古川正栄(千葉県)・軟式高校野球のながい準決勝が続いての決勝後の球児の笑顔が思い浮かびます。今井岩夫(千葉県)

【自句自解】
夏休みも終りに近い頃、何時ものように、前の空地に近所の子供さん達が集まっていました。賑やかな声に私も外に出て垣根越しにみると、道に近い西側に一本の柿の木があり男の子たちは

その周りで、女の子は草花を摘んだりお喋りをしたりそれは楽しそうでした。時々大きな笑い声、日焼けした顔は健康的でどの子も輝いて見えました。そんな光景を捉えて作ったのがこの一句です。なるべく明るい句を作るように心掛けております。

◎短歌部門

222 この道は往きてはならじ往かせてもかつて通りし戦への道
山田良男(埼玉県)



山田良男様

・集団的自衛権の行使に対して、戦争への道を行くではないかという思いが強く詠まれています。関原幸子(東京都)・戦争体験のない若い政治家総理を先頭にあぶない。黒澤正行(福島県)・終戦記念日の今日しみじみと心に響きました。川嶋法子(東京都)・平和の国から後戻りするような世相です。絶対戦争は反対。私も…。柳澤京子(宮城県)・日頃私が思っていること。戦争ほど恐ろしく愚かなことはないと思っています。矢島多恵子(東京都)・集団的自衛権はあつても戦争は絶対駄目。被爆国だからなおさら。村山徳英(埼玉県)・この先日本の歩む道はどうなるのでしょうか？今の平和が長く長く続きますように祈ります。峯田まり子(奈良県)

【自句自解】
普段はこの種の歌はあまり詠わないのですが、平易の言葉で大切なことを主

張しました。多くの国民や識者、学者などが懸念する中、集団的自衛権の行使に関する件の閣議決定がなされました。戦への道の一步ととらえました。小学一年の時、終戦を迎えた体験等も根底にあります。憲法が解釈のみによって、原則、理念まで変えられては困ります。

戦への道に往く、往かせることに対するの信念を一首としたものです。

◎川柳部門

259 幸せを築いた裏に妻の汗
鈴木義雄(福島県)



鈴木義雄様

・妻に捧げたい一句であります。涙ができましたね!! 関本守(新潟県)・何げない動きに光るものがある。松田義登(福岡県)・夫を影で支えながら家族を守り努力した汗は光る。諸橋文男(新潟県)・家庭では妻の役割が大事。福地義雄(沖縄県)・年を取り自由がきかなくなると尚更妻の有難味が判る。野田明夢(新潟県)

【自句自解】
愛読されている方々から私の川柳を選んで頂き感謝致しております。
私も結婚して四十三年、老を感じる七十三才になりました。今、ふり返ると夫婦共働きで転勤五回、その後自宅を持ち苦難を越えて定年を迎え、妻は家事と孫二人を世話する毎日が続き、ようやくこゝ一年落ち着いた日々を送り、

人並に幸せをかみしめる事が出来るようになりまし。この幸せは妻の「内助の功」であると信じてつくりました。

《俳句》
174 梅干して妻は益々母に似る

鈴木蝶次(宮城県)

・こうして日本の伝統は引き継がれてゆく：近藤薫也(千葉県)・梅を干している妻が姿や仕草まで母に似てくると言うそれを見ている夫のやさしい眼差し、平和ですね 高崎登喜子(東京都)・代々受けつがれてきた味。余韻のある句だと思えます 平山千江(岩手県)・夫君のやさしい眼差しと母への気持ちを感じる 寒川靖子(香川県)・私も良く似ていると夫に云われました 杉原明子(静岡県)・母から娘へ受けつがれるもののひとつ、梅干も又母の味かと思う 堀井醉人(茨城県)

《短歌》

242 一台のラジオに集落びと寄りすがり
腑抜けとなりし夏昼下がりに

高橋卓二(新潟県)

・昭和三十年八月十五日終戦の玉音放送を如実に語っている 土谷敏雄(秋田県)・敗戦日の暑さを思い出します。亡父の涙の理由がわからなかった幼き日 清水勝子(神奈川県)・終戦の日です。ね「腑抜けとなりし」に当時の様子がありありと浮びました 音喜多千津子(埼玉県)

《川柳》

24 宿酔に懺悔の水が効いてくる

関本守(新潟県)

・誰もが経験するが、ひどい宿酔も翌夕

は忘れてる 植松與悦(山形県)・宿酔の経験数多。自己嫌悪 橋本世紀男(東京都)・この気持、痛いほどよくわかる。でもお酒の魔力には勝てないのよねえ： 戸田美佐緒(埼玉県)・酒を好んで二日酔いの数々、若い日の思い出も懐かしく同感 三宅得三(新潟県)

247 新背負いスマホ見ている金次郎

橋本世紀男(東京都)

・歩きながらのスマホ。金次郎も開いた口がふさがらない 中嶋秀次郎(埼玉県)・今昔の違い、本をスマホに替えて見るのも楽しい。この本の方はみなよく知っているから(笑) 佐伯セツ子(香川県)・おもしろい現代版というところ 内河邦久(東京都)・歩いていても自転車に乗ついても電車に乗つても七人のうち五人はスマホ。流行とはいえ、お粗末を諷刺 石尾曠師朗(東京都)

《他にも》

32 ありがとう柩にそつと夏帽子

堅田秀子(東京都)

62 地球には国境なしと夏つばめ

武市愛子(大阪府)

212 もう一度取り戻したしこの笑顔古き写真に話しかけたり

音喜多千鶴子(埼玉県)

224 山の鼓動いくたび聞きし靴なりき底

後藤美佐子(長崎県)

254 グリーン車に初めて乗ったフルムーン

藤沢健二(千葉県)

290 辞書にない言葉が過疎に生きている

渡部美代子(山形県)

※今後もふるってご投稿をお願いいたします！

新潟ぶらり

★山田花作の横顔1 西大畑公園

柳とちいさな堀のある、西大畑公園。堀ちかくに、山田花作の歌碑がある。

柳散る秋の西堀東堀 淋しきころよ恋のみなとも



西大畑公園(新潟市中央区西大畑町)。

山田花作、本名は山田穀城。新潟を代表する歌人であり、新潟新聞(現在の新潟日報)の主筆としても活躍した新聞記者である。

出身は佐渡。十五歳のとき新潟へ出て北越学館で学ぶが、病気のため半年で帰郷、政治・歴史・文学等の書籍を読み耽る。このとき新聞記者の素地が養われたという。

明治二十七年、再び新潟に戻り、坂口仁一郎(坂口安吾の父)に認められ新潟新聞社に入社。五年で編集長・主筆となる。「流血の県会」をめぐる報道では、自分に対する報復を覚悟の

うえ、社説で知事に辞職を勧告する等、ドラマチックな活躍をしている。嗣子・山田又一による穀城の回想からは、その筆力の高さがうかがえる。

「筆に澁滞を来すやうなことはなく、まるで頭の中に出上来上つてゐる文章をそのまま筆に載せてゐるやうに見え、傍で見ても実に楽さうであった。」*

穀城は短歌においても才を発揮した。与謝野鉄幹や晶子との交流もあり、明治三十二年、新派和歌研究のため「みゆき会」を結成。「若菜舟」という同人雑誌を発行し、その普及につとめた。

新潟を詠んだものとしては冒頭歌の他にも、

西堀に秋風吹けば放浪の

すがたおもはせ散る柳かな

がある。柳の散るさまをみて淋しい、淋しい、と言いながらも穀城はきつと、秋が好きだったと思う。

(菅真理子)

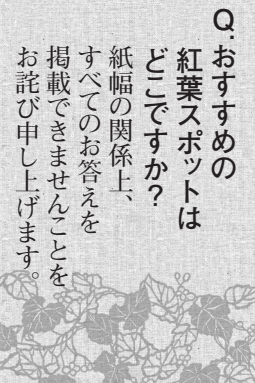
*『山田花作歌集』昭和十四年、新潟新聞社発行



うたの隣に描かれている似顔絵は、北原白秋によるもの。

A Q U E S T I O N N A I R E

前回のアンケート



Q. おすすめの紅葉スポットはどこですか？

紙幅の関係上、すべてのお答えを掲載できませんことをお詫び申し上げます。

《東日本》

★山

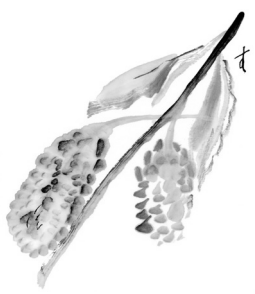
- ・いろは坂。曲るたび迫る紅葉の印象が強く残っている 長峰正晴(千葉県)
- ・安曇野の池田町の樹齢千年の大きな紅葉樹と北アルプスが素晴らしい 須澤重雄(長野県)
- ・小海線の野辺山原 篠原三郎(静岡県)
- ・栗駒山の紅葉が一番 高橋まさ子(宮城県)
- ・福島市のシンボル「吾妻山」 佐藤正子(福島県)
- ・我が家から眺める守門岳 諸橋文男(新潟県)
- ・会津田島から若松へ抜ける街道沿いの紅葉 井上静夫(栃木県)
- ・覚満淵 青木里恵子(群馬県)
- ・岩手県八幡平の森の大橋 平山千江(岩手県)
- ・岩畳の長瀬 宇田川正雄(埼玉県)
- ・鳴子峡。絵葉書のような景色 小野正光(宮城県)
- ・夏井川溪谷 林克(福島県)
- ・妙義山 石原岳(群馬県)
- ・恵庭溪谷 梶鴻風(北海道)
- ・軽井沢の碓井峠 佐々木都(長野県)

- ・甲府市昇仙峡は絶景 土屋喜雄(山梨県)
- ・奥胎内の景観と黒川界隈 小山羊子(新潟県)
- ・山形の蔵王 鏡たか子(山形県)
- ・夜叉神峠 杉原明子(静岡県)
- ・秋山郷 三宅得三(新潟県)
- ・秋田県湯沢市皆瀬の小安京、温泉噴気と溪谷美 土谷敏雄(秋田県)
- ・十日町の「清津峡」 村山徳英(埼玉県)
- ・鎌倉のアルプス越えの紅葉のすばらしさは夢のごとくでした 福田和子(東京都)
- ・養老溪谷です 藤沢健二(千葉県)
- ・川口湖の湖畔一周道路の桜紅葉 渡邊美枝子(山梨県)
- ・全山燃えるような秘境「奥只見湖」 近藤薫也(千葉県)
- ・谷川岳一の倉沢 桑原謙一(群馬県)
- ・丹沢 宮ヶ瀬 虹の大橋 岩田信(神奈川県)
- ・筑波山頂に登る山道の紅葉 池田岬(埼玉県)
- ・中禅寺湖の遊覧船からの湖畔 寺内佑(埼玉県)
- ・新幹線から見る碓氷峠から軽井沢迄の「錦秋」は見事 内河邦久(東京都)
- ・長野県上伊那郡飯島町七久保与田切溪谷上流部 飛竜の滝 大場茂明(長野県)
- ・鶴岡に向う山合の紅葉 木村舩(山形県)
- ・東京の奥多摩 吉村充治(埼玉県)
- ・那須高原 松涛千鶴子(東京都)

- ・日光の小田代ヶ原。雨の後行くと湿原が湖になり男体山や回りの紅葉等映り素晴らしい 岡弘子(埼玉県)
- ・柏崎市赤坂山の松雲山荘。ライトアップされた紅葉は幻想的 若月理依子(新潟県)
- ・八ヶ場ダムの工事中ですが吾妻溪谷 黒岩正子(埼玉県)
- ・八甲田山の黄葉・奥入瀬の紅葉そして十和田湖の錦 一瀬正子(埼玉県)
- ・精進湖畔から入る紅葉台の紅葉 宮川華余子(山梨県)
- ・福島県の五色沼 山田富朗(埼玉県)
- ・花貫溪谷 要田信子(茨城県)
- ・鳴子峡の紅葉。轟温泉の先の橋より見下ろすのが一番 藤井春三(埼玉県)
- ・嵐山溪谷の紅葉が素晴らしい 中嶋秀次郎(埼玉県)
- ・涸沢カールのナナカマドと緑のグラデーション 中林恵子(大阪府)
- ★公園
- ・旧三島郡越路町の越路庭園 菅井文男(新潟県)
- ・江戸川堤から見た里見公園 田中迪子(東京都)
- ・江戸東京たてももの園の高橋是清邸の二階からの景色 石橋裕子(東京都)



- ・高田公園 五十嵐睦博(新潟県)
- ・埼玉東松山の国営森林公園 浜田はるみ(埼玉県)
- ・小石川後楽園。紅葉をいただいできてきれいに洗って湯舟に入れて楽しめました やまぐち珠美(神奈川県)
- ・「二六義園」。夜もライトアップされとても優雅 高崎登喜子(東京都)
- ・立川市の「国営昭和記念公園」 布目雅之(東京都)
- ★寺・神社
- ・「山寺・立石寺」の静寂な雰囲気紅葉に浸ることをおすすめ 植松與悦(山形県)
- ・河内長野市・観心寺。桜の時も紅葉の時も金剛山を後に見事 奥那於子(大阪府)
- ・埼玉県新座市平林寺 緑川禎男(埼玉県)
- ・成田山新勝寺 殊に茶室の周辺 南喜美子(千葉県)
- ・千葉県柏市にある、あじさい寺とも云われる本土寺 鈴木智子(千葉県)
- ・秩父三十三所巡りに参加した時、ある寺院に数百年以上との紅葉、まさに傘のようでした 野村牟人(東京都)



A Q U E S T I O N N A I R E



- ・東京世田谷区豪徳寺
- ・清水美千(東京都)
- ・東京都あきる野市の広徳寺のイチヨウの大樹
- ・有島和子(東京都)
- ・日野市にある高幡不動尊：境内にある五重の塔に映ゆる紅葉はすばらしく心に残っています
- ・堅田秀子(東京都)
- ・弥彦神社の秋は如何でしょうか
- ・今井忠一(東京都)
- ・来迎寺の紅葉園
- ・星野三興(新潟県)
- ★その他
- ・わが西郷村の甲子高原
- ・黒澤正行(福島県)
- ・中野邸の「もみぢ」(新潟・秋葉区)
- ・安木沢修風(新潟県)
- ・世界の富士山となりました近くの白糸の滝
- ・清まさじ(静岡県)
- ・旧国鉄赤谷線沿線 相馬竹浪(新潟県)
- ・田無の小学校の校庭に一本の空をつかさどす様な巨大ないちじょうの木。
- ・大久保アヤ子(東京都)
- ・旧下田村大浦小学校。いちじょうの木の下は「いちじょう教室」となり、いすを並べて勉強した
- ・藤橋一葉(新潟県)
- ・日光五色沼
- ・渡邊碧海(静岡県)
- ・長野県大町市雑木紅葉
- ・小澤円梨(静岡県)
- ・北海道は江別市野幌の公民館の庭の紅葉がおススメ
- ・安田優子(北海道)
- ・三条市下田地区ドライブをしても紅葉がきれい
- ・佐藤秀子(新潟県)

《西日本》

- ・「我孫子ゴルフクラブ」の入口につながる紅葉
- ・今井岩夫(千葉県)
- ・大町温泉郷での紅葉湯に浸かりながら気分最高！
- ・松本さみ枝(埼玉県)
- ★山
- ・鳥取県大山山麓
- ・湯浅芳郎(岡山県)
- ・井上氣海(広島県)
- ・愛知県は東三河山間部はきれいです
- ・高柳閑雲(愛知県)
- ・愛知県豊田市の奥、足助町の「香嵐溪」
- ・羽根田明(神奈川県)
- ・京都右京区の高雄
- ・石井登(大阪府)
- ・熊本県五木村から平家の落人部落五家の庄に至る溪谷が好き
- ・後藤すえひろ(福岡県)
- ・香川県小豆島の寒霞溪
- ・天野輝子(東京都)
- ・佐賀県伊万里の大川内山という秘蔵の里です
- ・後藤美佐子(長崎県)
- ・山口県の長門峡がとてもすてき
- ・藤井碩子(山口県)
- ・奈良県の信貴山の紅葉
- ・峯田まり子(奈良県)
- ・滋賀県にある湖東三山の紅葉
- ・湖東三山とは、金剛輪寺・西明寺・百濟寺
- ・寛裕紀子(滋賀県)
- ・雪を被った大山岳の紅葉の裾模様今も目に浮かびます
- ・澤雅子(大阪府)
- ・大阪府吹田市北千里にある楓の並木
- ・十一月ごろそれは美しい紅葉です
- ・山本直子(大阪府)
- ・地域のみかん山です。小杉谷小学校分校跡地あたりのななかまどがきれ
- ・山崎鶴恵(鹿児島県)
- ・豊田市足助町香風溪
- ・森恒雄(愛知県)

★公園

- ・霧島山麓
- ・坪田勝秀(鹿児島県)
- ・鳥取県では三朝町の小鹿溪谷の紅葉
- ・邑橋節夫(兵庫県)
- ・鳥取県大山。智頭町芦津峡
- ・田中昶(鳥取県)
- ・「安井溪谷」でしょうか。
- ・津田吾燈人(高知県)
- ・丸亀では中津万象園の秋景色がとても良い
- ・奥田音野(香川県)
- ・京都北洛しようざん庭のみみじ
- ・関子利明(兵庫県)
- ・大阪府箕面市箕面公園「滝ともみじ」
- ・木下精(大阪府)
- ・彦根城の玄宮園の紅葉がおススメ
- ・中村慶子(滋賀県)
- ・兵庫県姫路市本町の「好古園」が最高に良い
- ・油谷郷史(兵庫県)
- ★寺・神社
- ・山口県下関市の巧山寺境内・大分県中津市耶馬溪の山林
- ・岡本邦子(福岡県)
- ・葛城山麓の牛瀧寺の紅葉
- ・堀木和子(大阪府)
- ・永観堂(京都)
- ・青木涼子(埼玉県)
- ・永源寺(滋賀県)の全山紅葉のすばらしさ
- ・久保和友(滋賀県)
- ・炭崎博(滋賀県)
- ・義仲寺翁堂
- ・環順子(東京都)
- ・京都「光明寺」砂利道からのかやぶき屋根、それに紅葉が招く様は素晴らしい
- ・松尾らん(東京都)
- ・京都「南禅寺」の紅葉。これまであれほどの美しさに出会ったことはない
- ・紺谷睡花(東京都)
- ・京都のくらま寺
- ・山本理香(大阪府)
- ・京都の東福寺の通天橋
- ・居原田連星(大阪府)

★その他

- ・京都市右京区にある「高山寺」の境内の紅葉
- ・萬濃その子(神奈川県)
- ・鹿児島県霧島市にある鹿児島神宮参道の紅葉が一番
- ・濱崎祥子(鹿児島県)
- ・常勝寺の紅葉
- ・大江秋月(兵庫県)
- ・全国日吉大社の総社、大津市坂本の日吉神社の紅葉
- ・藤原昭三(滋賀県)
- ・大宰府天満宮
- ・松田義登(福岡県)
- ・奈良の室生寺
- ・竹村穂夫(大阪府)
- ・琵琶湖北、木の本付近の古寺、寺址
- ・石尾曠師朗(東京都)
- ・福岡、英彦山の神社に登る洛道の紅葉
- ・浦橋克行(兵庫県)
- ・一乗寺の紅葉が美しいです
- ・山田幸代(兵庫県)
- ★その他
- ・佐賀県神崎市九年庵
- ・中嶋清子(佐賀県)
- ・岡山県備前市閑谷学校
- ・二本の楷の木
- ・の紅葉が美しい
- ・久本にい地(岡山県)
- ・万葉集にある竜田川で「竜田の川の錦なりけり」と詠まれています。
- ・野木宗信(奈良県)
- 《海外》
- ・カナダ、スイス
- ・谷口弘(栃木県)



第37回目の今回は、山川元旦さまよりバトンを託された村上澄子さま。
東海道五十三次の道中には、風光明媚な場所や有名な名所旧跡が多いとか。
目の保養とお腹の保養のため!?!にも、京都まであと五十二の宿場をたどれるといいですね!

●お客様の『リレーエッセイ』

東海道五十三次の 第一宿場町品川へ



村上澄子

(千葉県・成田市)

JR品川駅のホームの中ごろで待ち合わせ、京急本線に乗り換え一ツ目の北品川駅で下車。駅で観光案内を探したが見つからず、持参のコーマップを手掛かりにスタート。

まず利田神社の鯨塚を目指す。旧東海道商店街を南下し八ツ山通りに出る。道を尋ねながら行くと、路地の一角にひっそりと樹木に囲われた利田神社が目に入る。この神社は、昔は目黒川河口の突端にあり洲崎弁天といわれ、境内の鯨塚が知られている。

解説板には寛政十年(一七九八)五月、折からの暴風雨により品川沖に迷い込んだ大鯨を地元の漁師が総出で捕えた。これが江戸中の評判になり、時の将軍家斉も見学したとある。

鯨塚ということで、古墳のようなものを想像していたが、想定外でした。

次に、北上し東京十社の一つという「品川神社」(富士塚)へ向かう。

この神社は、文治三年(一一八七)源頼朝が海上交通安全、祈願成就を願い、安房の国(千葉県)の洲崎明神を勧請したという北品川の総鎮守で、富士塚「品川富士」から見る富士山がとても美しいと聞いていたので、一度は来てみたかったところ。

大きな石の鳥居がみえてきた。鳥居の脇には大きな大黒天の石像が安置されている。男坂はさけて緩い右手の坂道をのぼる。

本殿に参拝し、すぐ右手に阿那稻荷神社へいざなうように朱の小さい鳥居が続き、迷わず参拝。本殿に戻り、富士塚を眺める。下からみると山頂まで登れるかしら、と思うほどの急勾配に見えた。螺旋状の階段

を一歩ずつ山頂に登る。この日はあいにくと梅雨曇りのため大望の富士はみえず、山頂から品川の町並みを一望する。しばし富士登頂の達成感を味わい下山してくると、いつのまにか男坂の中段に出る。目をやると岩の木陰に草鞋が三足奉納されて足神様が祀られていた。無事登山できたことを深謝し、男坂を下山する。

旧街道に戻り、休憩も兼ねて昼食をとることとする。歩いていると地元の方が四、五人お店から出てきたので、そこに決める。お刺身定食のランチを頂く。次の本陣跡の道を尋ね、店を出る。

宿場通りを歩いていると、琴・三味線屋、炭焼処、履物屋、畳屋など昔ながらの職業の看板が目にとまる。

品川本陣跡には遺構は何もなく、遺跡碑が建っているのみ。今は聖蹟公園になっっている。

本陣は、大名や、公家・幕府役人・外国使節などが宿泊施設として利用していた。この本陣には明治天皇も宿泊しており、その由緒から公園の名がつけられたという。

ほど近いところに荏原神社(七福神の恵比寿神)に寄る。石像の等身大の七福神に触れながらそれぞれにお参りする。目の前に目黒川が流れている。その川の上に橋が数本あり「品川橋」をわたり、宿場通りを青物横町方面に向かって歩く。

京急本線と宿場通りの間には多くの神社仏閣があり、参詣しながら最後の品川寺(七福神の毘沙門天)に辿り着く。

品川寺は弘法大師開山といわれる古刹で、中に入ると江戸六地藏の第一番にあたる地藏菩薩坐像が安置されている。青銅製の地藏菩薩は座高二・七五メートルで、江戸時代にはここで手を合わせて道中の無事を祈ったという。

以上で品川宿の散策が終わったところでコーヒータイム。

品川寺の近くにお勧めの「レ・サンク・エビス」というケーキ屋さんに寄る。そこで食べたチョコに甘じよっぱい醤油味の混じったようなドーナツが大変美味で、コーヒを一層おいしく頂くことができました。

滋味しみじみ◎◎◎

おいしかった「ゆかり御飯」

森俊彦様(神奈川県・横浜市)

6月13日、音楽教室・風呂の後は、昼食であったが、なつかしい「ゆかり御飯」にお目にかかった。梅雨の和食御膳として、天ぷら盛り合わせ、白瓜の梅和え、と共に、魚そうめん、三つ葉のすまし汁と、水菓子、メロンがついている。私は、ゆかり、しば漬、のりが好物であるから、米飯の上のゆかりの赤紫が目につき、その香りが漂って来ると、すぐ席についた。「うまい。」口中にひろがる塩味と香り。米飯の口ざわりと共に、ほのかな、微妙なあたたかみを感じられて来る。天ぷら、すまし汁の魚そうめんとのとおり合せも、舌にはこの上もない味わいとなる。白瓜の梅和えも、ぷりぷりして、何といい歯ごたえ。うまい、うまい。

「おいしかったら、お代りいよ」というのでお代りしたら「三杯目、ゆかり御飯をそつと出し」と笑われてしまったが楽しい一日であった。



「詠み人のリレーエッセイ」書籍化へ!

2006年2月号よりスタートした、毎回好評の俳人・歌人による「詠み人のリレーエッセイ」のコーナー。この度、俳人10名の方のエッセイ、お一人三篇ずつの合計30篇を書籍化することといたしました。

ご執筆いただいたのは、中原道夫様をトップバッターに、池田澄子様、高柳克弘様、神野紗希様、山西雅子様、日原傳様、岸本尚毅様、森賀まり様、高田正子様、中西夕紀様という俳壇の第一線で活躍中の豪華な顔ぶれ。詳細は、今後誌上でお知らせいたしますので、楽しみにお待ちください。

活版ポストカード「^{ことほ}言祝ぐ〜」を発売!

「古くて新しい」と静かなブームになっている活版印刷。この度、当社が10月10日に11周年を迎えたこともあり「おめでとう」のメッセージと、「鯛」と「おちょこ」の図柄を配した2種のポストカード「言祝ぐ〜」を発売しました(詳細は別紙チラシ参照)。お友だちに、ご家族にと、どなたに対しても様々にご活用いただけるこの商品で、言祝ぐ気持ちをお伝えください。喜びが倍化すること請け合いです!ご注文は電話・FAX・メールにて承っております(お問い合わせ先は本誌16P下)。価格:6枚入り(2柄各3枚)1,000円(税込)。

「ご縁ブック2014」「2015年手帖」のお申込みありがとうございました!

本年も、多数のお申込みをいただきありがとうございます。「ご縁ブック2014」は12月上旬、「2015年手帖」は11月下旬の発送を予定しています。いずれも、お楽しみに!

ポストカード好評発売中!

毎回ご好評いただいている当社のオリジナルポストカード(1組8枚入り500円×各季節)。今回は秋バージョンの「松ぼっくり」を同封いたしました。同封のアンケート用紙にご希望の季節、セット数を明記のうえ、**必要金額分の切手を同封のうえ封書にてお申し込みください。**

スタッフの一言

Q. おすすめの紅葉スポットはどこですか? ※ハロウインの帽子をかぶって魔女に

木戸敦子



気がつけばハラハラと散り始め、今はもっぱら「めざましTV」の紅葉スポットで愛でるのみ。大学の大銀杏の下での待ち合わせ…ああ懐かしい!思い出の一コマは紅ではなくイエローページです。

古川久美子



馴染みがあるのは、地元「秋葉山」!桜の時期に迷子になりそうになったとかならないとかの身近なお山。あとは、「中野邸美術館」でしょうか。ゆっくり紅葉見に行きたいなー。

菅真理子



私もやっぱり中野邸。これから行ってみたいのは秋山郷。ものすごくきれいらしい、でもいつも見逃している。一番心に残っているのは、小学校のときに住んでいた秋田の、山々の紅葉。

山田千秋



やはり小さい頃通った公園の紅葉、富山県高岡市の古城公園の紅葉です。ここは私の生家か、いとこ家の生家か、毎日のように通ったものです。お城のお堀に白鳥もいてそのコントラストも素晴らしかったな…。

木伏美恵



弥彦のもみじ谷。弥彦の菊まつりを見た後に寄るのがわが家の定番ルート。近場では阿賀野市の五十嵐邸ガーデンの日本庭園です。結婚式をしているとお庭に入れてくなくてガッカリしますが…。

上村真智子



秋山郷で見た色鮮やかな紅葉が忘れられません!その日の夕方、萌木の里で中越地震に遭い、眠れない夜を過ごした。翌日美しい紅葉に彩られた被災地から命からがら帰途についた。

金子ゆり子



国道49号線を実家に走って行く阿賀野川沿い。天気の良い日なら山の色、阿賀野川の穏やかな流れを見ながらの運転は最高です。福島に近付けば近付くほど素晴らしくなります。今年も紅葉が見られると思います。

石山由希子



そういえば、花見はあんなに熱心なのに、紅葉狩には行ったことがありません。毎年、街路樹の銀杏やななみだ、桜たちが色づいたのを見ながら「すっかり秋も深まったねー」と独りごちています。

吉田瞳



金子さんと同じ国道49号線沿いです。あと近場で県立島見緑地公園は黄色の銀杏がとても綺麗です。上ばかりみて歩くと銀杏を踏みなんとも言えない気持ちに…これも秋の醍醐味でしょうか。



大好きなぶどうをたくさん食べれて幸せ♡お薦めはシャインマスカット♡3歳1ヶ月



詠み人の『リレーエッセイ』

ふたつの歳時記

私にはふたつの歳時記があります。二冊ではなくふたつ、と言ったのは書物としての歳時記のことではなく、自分が感じる季節の移ろいの記憶。いわば心の歳時記のことだからです。私のふるさととは群馬県の榛名というところですが、今は青森の八戸に住んでいます。数百キロの距離のある引越しをして心の歳時記は書き換えが必要でした。

例えば桜。桜前線は日本列島をゆっくり北上するから、わがふるさとでは桜の開花は三月下旬から四月上旬となります。青森ではちょうど五月のゴールデンウィークが見頃となることが多くなります。我が家では花見は行楽地を避け、近所の学校まで散歩、が恒例になっています。休日の校庭は静かでのんびり花を楽しめるのです。

運動会は、秋の季語となっているようです。自分自身の小学校の運動会は十月頃だったと記憶しています。運動会やら稲刈りやらで秋は大忙し、そういう話をよく聞いたものです。かつて運動会は学校行事というよりも地域をあげてのお祭りであったような気がします。

しかし青森では多くの小学校が春に運動会を行っています。太宰治の『津軽』にはある年の春、生まれ故郷を旅した太宰が三十年ぶりに子守の女性タケに再会するエピソードがあります。その再会の場は小学校の運動会なのです。『津軽』に描かれた運動会の晴れがましさは東北が春を迎えたよるこびと重ねることです。つくきりと思ひ描くことができます。

里見佳保

里見さんの二回目のエッセイは、自身の持つ二つの歳時記について。いただいたメールには「最近つくづく雲の形が美しいと思います。何か仕事の間、ふとした時、雲を見上げることで暮らしが整っていくような気がしています」。感じることも、言葉も、詩になっ

る。ふるさとと今自分の暮らしを置いている土地の季節感のズレに以前は悩みました。けれど、無理に書き換えなくてもそうか、私は心にふたつの歳時記を持つていてもいいんだ、と気づいた時からそのズレを楽しめるようになりました。

生まれ育ったふるさとの季節の移ろいを思って小さく励まされながら、今の暮らしを渡っていく季節にあたらしい気づきをもらいながら、私は私の季節を言葉で描き、歌にして残していきたい。ふたつの歳時記を豊かに、分厚いものにしていきたいと思っています。

秋になりました。深呼吸して見上げれば澄みとおる青空。ふるさとの秋をとでもなつかしく思います。神社の櫻が風に黄色い葉を鳴らしているだろうか。小学校の梅檀はたくさん実をつけただろうか。潰れたからすうりが道祖神のあたりに落ちているだろうか。子どもの頃秋の道を行く時には、からすうりの実をつぶして靴底に塗りつけていました。子どもたちの間ではそれは足が疲れないおまじないだったのです。

お盆やお正月には帰省していますが、秋には帰る機会がなく、秋の景は心の中で行くものになっています。もしかして私が心で行くそれらの景は、今はもうないものなのかもしれないけれど。

青き上に榛名をとほまぼろしに出でて帰らぬ我のみにあらじ
土屋文明『青南集』

2014. 10. vol.76 (2014年10月10日発行/隔月発行)
●発行・印刷/株式会社 ミューズ・コーポレーション
〒950-0801 新潟市東区津島屋 7-29
TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550
株式会社 ミューズ・コーポレーション ☎ 0120-819-395
e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com
郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社 ミューズ・コーポレーション

編集後記

5ページでお伝えさせていただいた送料ご負担の件。社内でもいろいろな意見がでたものの「喜怒哀楽の発行を続けるため」に踏み切らせていただきました。「送料を負担するなら来年からはいりません!」というばかりだったらどうしよう…という不安はあるものの、そうであればともと本誌は不要な読み物だった、と深く甘受しようと思います。その時はその時、別の形で当社を支援してくださる方への「何か」something new を考えようと! 冬の新潟の薄氷を踏むが如く、年末から年始にかけては刺激的なヒヤヒヤな毎日になりそうです。(木戸敦子)